

## イランの障害者を支援するミントの会 活動報告

(イラン滞在期間 2017年9月17日～9月23日) 作業療法士 秋山佳世子

### 1. キャラジ市内障害者団体主催研修会における講演会

- ・実施日：9月20日
- ・主催：NGOシャヒード・ナーセル・ゴルバニ
- ・場所：キャラジ市 マラード
- ・参加者：キャラジ市内の脊髄損傷者などの障害者とその家族など100名

#### ① 褥創の予防と管理について（大澤照枝 看護師）

褥創発生のメカニズム、原因について説明し、褥創レベル別の治療方法と処置内容について紹介した。また、予防対策について看護の視点から説明、予防・治療に日本で使われている福祉用具・機器について紹介した。



#### ② 褥創の予防、排泄の姿勢・環境について（秋山佳世子 作業療法士）

褥創発生の原因、予防対策で大事な除圧動作について、リハビリの視点から説明した。また、自然排便を促進するための姿勢とトイレ環境について説明、福祉用具・自助具を一緒に実施した。



#### ③ 障害者スポーツと社会参加（土屋辰夫 理学療法士）

障害者スポーツの歴史と東京パラリンピックの紹介。その中で、車椅子ラグビーとチェアスキーについてVTRを用いて紹介。また、脊髄損傷者の一人暮らし20代女性の日常生活、ADL動作についてVTRを用いて紹介した。



#### ④ レクリエーションを通して交流

イランのジャンケンを用いてゲームを行い、会場みなさんと交流をした。



講演後に会場から質問や意見が多数あり、活発な意見交換ができた。

また、終了後には褥創の相談、リハビリについての個別の相談が数多くあり、翌日以降に自宅訪問を行って対応した。

## 2. 自宅訪問 (大澤看護師、秋山作業療法士)

① 36歳男性 脳萎縮と診断。詳細不明。おそらく脊髄小脳変性症と思われる。

12歳に発症し学校へ行けなくなり自宅生活。病院からは栄養剤のみ処方。目の焦点合わず、頸部から上肢にかけ振戦あり。ADLいざりで移動。あぐら・臥位で床上生活。食事は介助。発話困難。臀部の褥創について相談を受けた。

右臀部に1cm×1cmの発赤あり。大澤Nsよりご家族へ処置方法についてアドバイスした。

② 33歳男性 ①の弟。9歳に発症し学校へ行けなくなり自宅生活。兄と同様。

家族性の疾患であると思われる。目の焦点合わず、頸部から上肢にかけ振戦あり。

比較的体格よく栄養状態は良好な様子である。臀部の褥創について相談を受けた。

臀部に薄い赤みはあるが傷に至るものではないと評価。褥創予防の方法をアドバイスした。

③ 41歳男性 脳に障害ありとの診断(後日シャルコー・マリー・トゥース病の疑い

情報あり) るい瘦目立ち、寝たきり状態。上下肢に拘縮あり。発声・発話困難。

褥創の相談を受けた。仙骨部・左大転子・右坐骨・左耳に褥あり。

大澤Nsより、処置方法についてアドバイス。秋山OTより、エアマットの空気圧調整・拘縮予防についてアドバイスした。

④ 36歳男性 ③の弟。脳に障害ありとの診断。家族性?歩行不安定で日に何度も転倒。

歩行は下肢筋力低下目立ちつま先の巻き込みあり、左右に上体揺れ、バランス不良。

転ばず歩けるように、運動方法について相談を受けた。

秋山OTより、下肢筋力低下の予防を目的とした運動方法についてアドバイスし、トレーニングメニューを一緒に実施した。また、ご家族に今後、症状が進行した場合の福祉用具を勧めた。

⑤ 23歳女性 脊髄損傷(Th11-12) 14歳で自動車事故により受傷。21歳で

転倒し左大腿骨骨折。歩行器使用で歩行可能であったが、褥創発生し骨一部切除。(おそらく骨頭壊死)その後車椅子生活。移乗動作自立レベル。褥創の相談を受けた。

右大転子1cm×0.5cm くぼみ状・浸出液あり。ガーゼに緑色の浸出液付着。

左大転子10cm×4cm ポケット・穴深い。悪臭あり。

大澤Nsより毎日の処置方法について助言を行った。秋山OTよりエアマットの空気圧調整を行った。

⑥ 73歳女性 左片麻痺。左上肢拘縮あり廃用手。側方介助にて歩行可能。意思疎通は一単語の簡単なやり取り可能。心身機能・活動性の維持と向上が図れるよう、日中の過ごし方と生活リハビリの助言を行った。